



金髪貧乳退魔師が  
肉体改造されて  
孕み袋にされる話……

深夜、妖魔の発生に出動していた下級退魔師のアリサは各所で  
暴れまわる妖魔の一匹に敗北し身体中に触手が絡みつかれていた。



いくら霊力で強化された身体能力でも下級退魔師の能力では  
妖魔の脅力から抜け出すことはできなかつた...





必死の抵抗で意識を保っていたが限界が近づきアリサの顔が青くなってゆく。

あがっ……あがっ……

あ……あ……

やばいやばいやばいやばいやばいっ  
これ以上は……ほんとに死んじゃう……!?



意識が遠のきかけたところで身体にまとわりつく触手の本体が  
アリサのもとに近づいてくる。

Boon!

おお…今夜もイキのいい娘を  
捕まえられたな

これは持って帰って  
僕の苗床の一つにしてやろう

あまりにおぞましい言葉を聞き、アリサは戦慄する。



意識が遠のいていく中アリサは必死に手を伸ばすが近くには  
誰もいない。

あ……アリサ……

だ……だれ……か……

ククク……こんを辺鄙なところだ  
誰も助けなど来んよ

さあ……大人しく乗るといい

首の触手が一層強く締めまりアリサの動きも徐々に鈍くなっていく。




アリスは一瞬の浮遊感を感じた後、意識が消え身体力が抜けていく。

あ……

ククク……  
他のやつらが来る前に連れて帰るとしよう

全身の筋肉が弛緩しアリスは失禁してしまい、辺りにアンモニア臭が立ち込める。





妖魔は満足気にその様子を見た後  
アリサを巣に連れて帰った。



目を覚ましたアリサは周囲を見回し自分の状況を確認するもあまりの臭気に顔を顰める。

何……何……

ムル……ムル……  
ムル……ムル……  
ムル……ムル……

全身にまとわりつく粘液と何日も洗っていない性器のような臭いに頭がくらくらする。



目覚めを待っていた妖魔は楽しみにアリサへ語り掛ける。

~~~~~  
アリサ、目を覚ましたか……

やはり肉体改造は  
意識がある状態で行わなければ

改造って……  
な、何をする気!?

妖魔に襲われ連れ去られた女性、特に霊力を持った退魔師たちは  
個別に肉体改造を行い子を孕み産み育てることに最適な身体に  
作り変えられていく。



妖魔は手始めに退魔師が纏うスーツを脱がせることから始める。

まずはその妖魔を防護服を除去してどうにか

おれは、  
この防護服を脱がせよう

下級退魔師に与えられる戦闘スーツは最低限ではあるものの精神汚染などに対する防御力があるため肉体改造には邪魔になる。



触手から分泌された粘液に浸されたスーツはたやすく溶け  
肌が露出していく

あーっそんな...っ  
スーツが溶けて...!!

く〜く〜...  
この程度の物ならば  
たやすく取り除けるな

さあこんを邪魔な物  
さっさと脱がしてしまおう

身をよじり何とか拘束から抜け出そうとするも身を守るスーツは  
無慈悲に溶けていく



ポロボロになったスーツは効果を失ったため妖魔は巨大な口を開け  
アリサの身体を飲み込み始める。

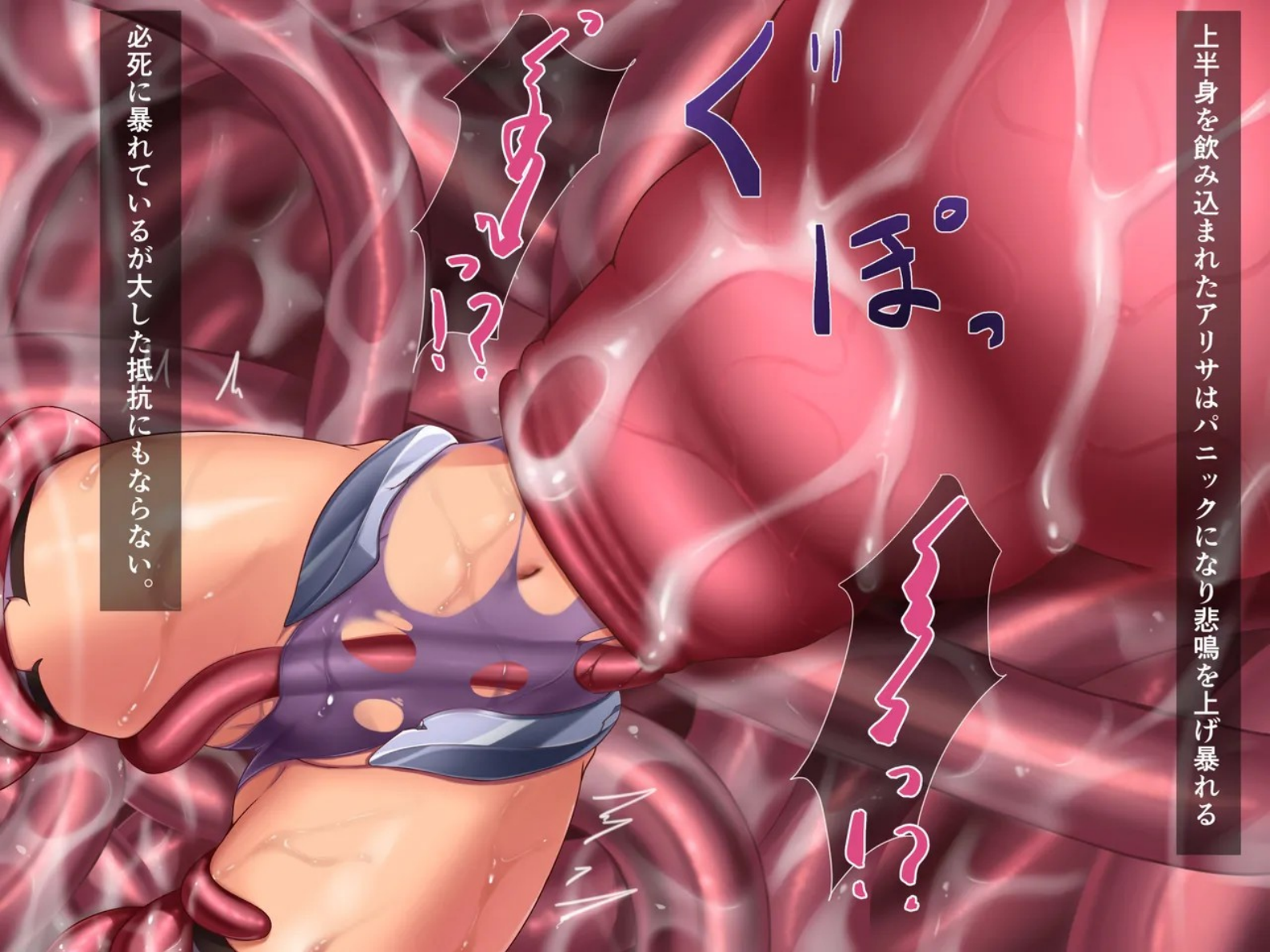
これだけ防護服が損傷すれば  
意味をなさなだろう

ええっ!?  
こ、今度は何っ!?

本格的に肉體改造を  
始めようか



上半身を飲み込まれたアリサはパニックになり悲鳴を上げ暴れる



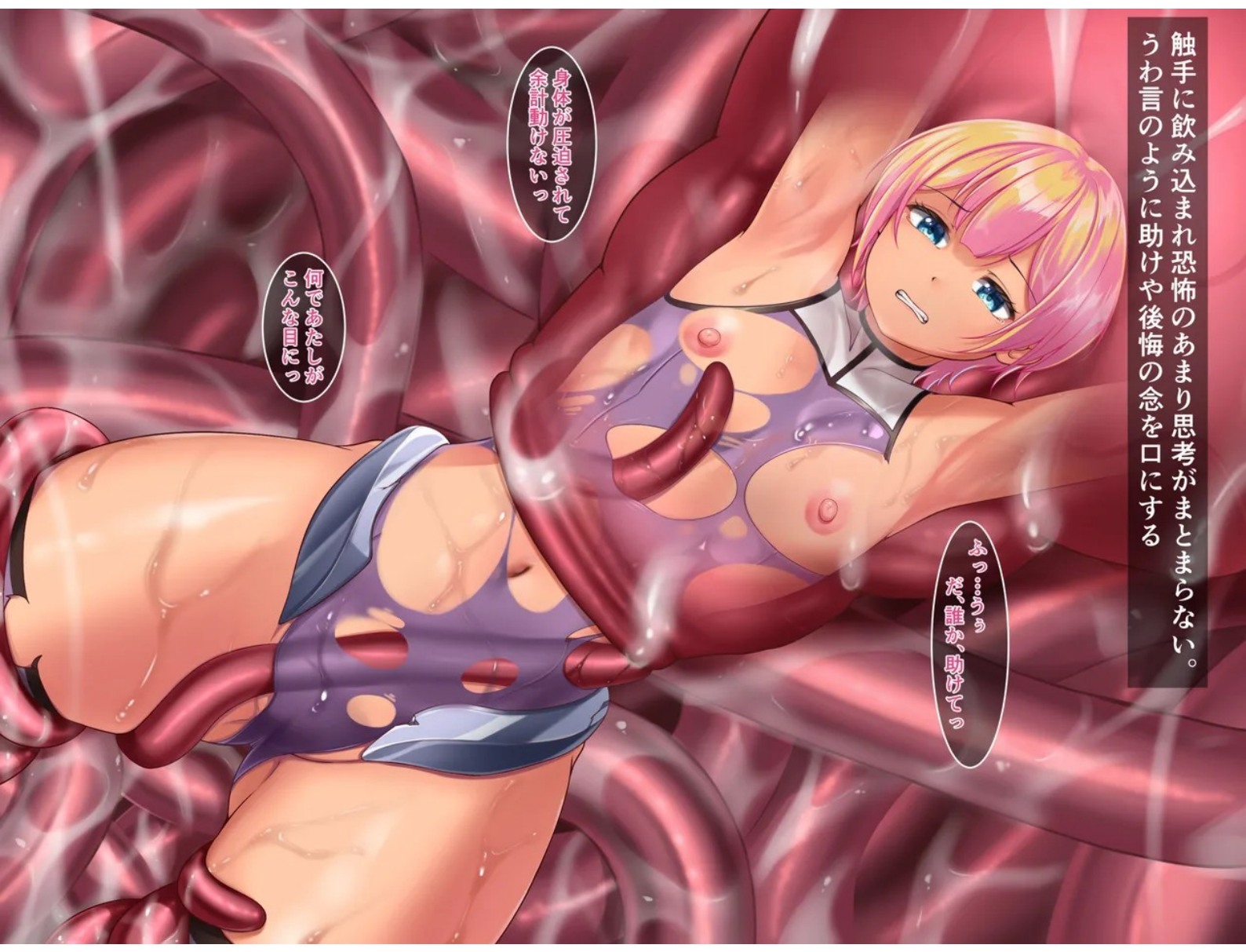
必死に暴れているが大した抵抗にもならない。

触手に飲み込まれ恐怖のあまり思考がまとまらない。  
うわ言のように助けや後悔の念を口にする

ふっふっふっふっ  
だ、誰か、助けてっ

身体が圧迫されて  
余計動けないっ

何であたしが  
こんな目だっ



触手の中で管が現れアリサの口と鼻を覆う。管の中からガスが噴き出し吸入してしまう

ここからは少し危険なので抵抗できなうようにしてやる

ブッポッ

ん……おし……  
変なにおいが

力が……抜けて

ガスを吸い込んだアリサは身体がしびれ全身の力が抜けていく



ガスが全身に回り筋肉が弛緩してしまい身動き一つ取れなくなったが不思議と意識だけははっきりと残っていた。

お……お……

何……これ……

意識ははっきりしてるのだ……  
身体が全然動かさない……

ようやく大人しくなったな  
まずは脳を直接いじり思考や感度を  
調整していくぞ

ガスが回りきるのを待っていた妖魔はついにアリサの脳をいじり始める。



細い触手が耳から侵入し、鼓膜を突き抜け中で神経よりも細く枝分かれた触手がアリサの脳に絡みついていく。

きゅっ!?

が……

耳が……  
何をする気……!?

よ……よ……  
これで一番危険な所は  
終わったな

さあ……想像出来な……ほどの  
快感に身もたえると……

じゅっ

じゅっ

一瞬の激痛が走るもアリサはピクリとも動くことはできない。



頭の中を中心に全身にゾクゾクとした快感が走り、徐々に絶頂感がこみあげて来る



軽い絶頂を何度も繰り返すがうめき声しか上がらない。波のように押し寄せてくる絶頂感が少しずつ強くなっていく。

絶頂が止まることなく際限なく強烈なものとなっていき反射的に身体がビクビクと痙攣する。



強烈な絶頂感を感じながら脳を改造され、すべての痛みを快感に変換し、どれほど刺激されても気を失うことができな身体に変えられていく。



アッ  
イッ  
おんざ  
れる  
アッ  
アッ

ガッガッ

しゅっ  
イキ  
しんぞ  
じゅう  
アッ

アッ

ガッ  
ガッ

永遠とも思える時間絶頂し続け、ようやくアリサの耳から触手が抜ける。

ふむ…脳改造は上手〜だったな

ああ…  
あ…

これで精神を壊さず  
僕らの子を孕み続けることが  
出来るようになっただろう

廃人になった女は  
面白味が無くなってしまったからな

脳改造を受け例え今、救出されても日常生活を送れないほど全身を性感帯にされ  
また、どれほど犯されようとも壊れることが許されない身体にされてしまった。



数時間後











ぬ  
ほ  
♡

♡

ん  
あ  
♡

ア



気分がよくなった妖魔はアリスの臍内を容赦なくかき回し再び絶頂地獄を味合わせる。

くっ♡♡

おお、  
ほおお♡

イクッ、イキ死んじゃう♡  
とめてっとめてええええ♡

ググッ、ググッ  
ググ

淫れ淫れ、どんな動きしてるか  
はつきり分かるだろー！



さらなる快感を与えるためゴツゴツした触手がアナルに近づいていく。

ハーーーーッ

ほら、アナルだって極限まで感でるよつたなつてっつるはずだ

しっかりと味わうがっ

ハーーーーッ

あああっ!?  
待ってっけもう無理っ!!  
ほんとに死んじゃうからあ





んッ  
おおお  
おぶ  
おぶ  
♡

ん  
ん  
ん  
♡

ぐ  
ほっ  
♡

ず  
か  
♡

ブ  
ッ



アナルをこじ開け直腸から膣壁と子宮をこねくり回され  
感じたことのない激しすぎる快感を受け巢の中に汚いメスの咆哮があがる。

妖魔側も射精感が高まり精子が子宮内に届くよう、子宮口をこじ開けんばかりに奥へ侵入していく。

が  
く  
く

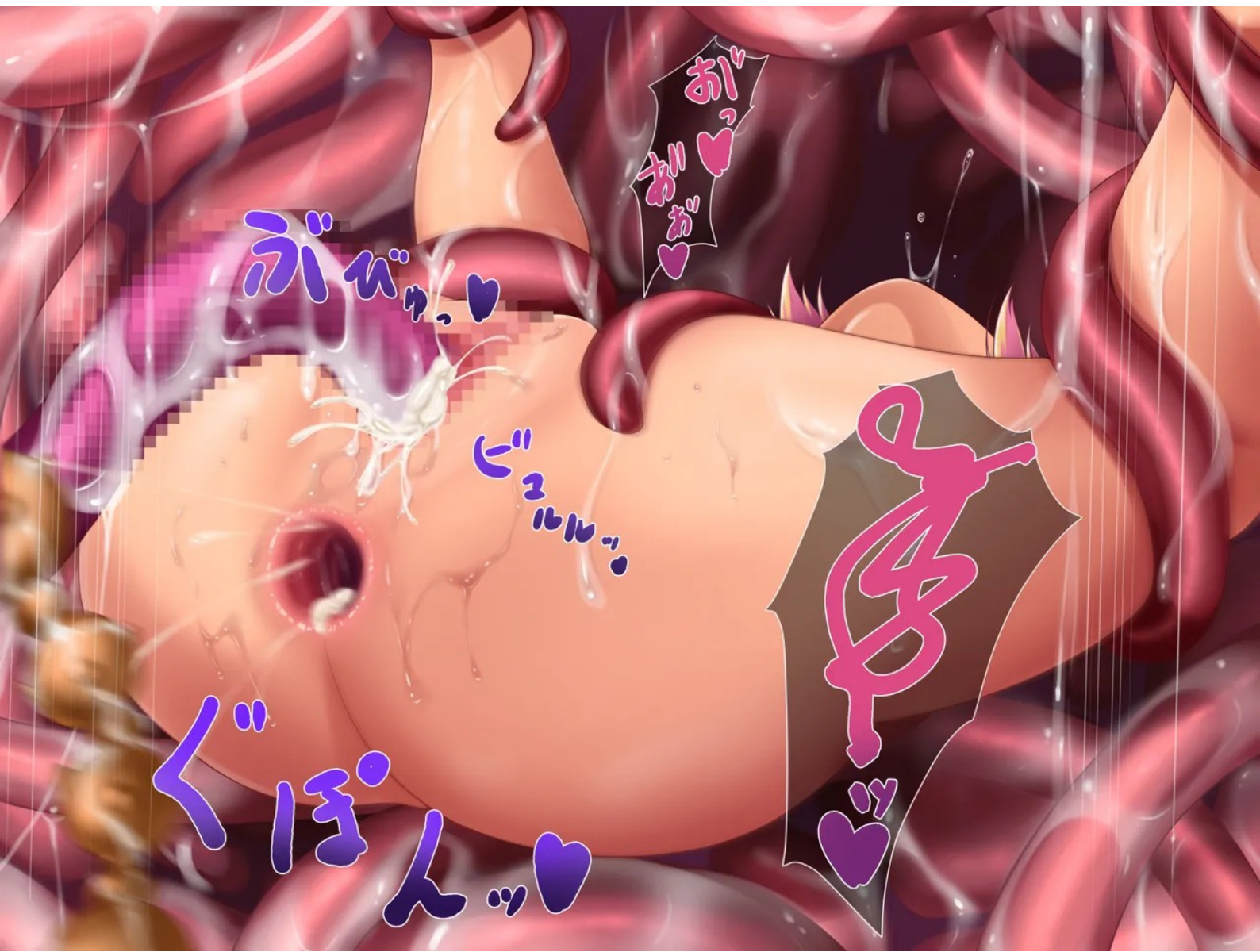
ああー♡  
せいしっ一杯オマンコの中に  
だしてくださー♡

グ  
グ  
グ

よおおーし詰すぞ  
しっかり僕の子をばらめよきー

ダメダメダメ  
妖魔の子なんて嫌なのに  
口が勝手にいっ♡

頭の中では必死に抵抗しているはずが身体は全力で精子を求めより強力な絶頂の波が押し寄せてくる。



おっ♡

おっ♡♡

おっ♡♡♡

おっ♡♡♡♡

おっ♡♡♡♡♡

妖魔の精液が子宮の中にとっぷりと注がれアリサの脳内から大量の  
幸せホルモンが分泌され幸福感に包まれる。


あ……

ふう……  
これだけ出せば十分だろう

妖魔に犯された人間の  
妊娠は確実だからな

はへ……  
はへ……

度重なる絶頂で気を失い脱力したアナルはぼっかかりと開いたままになっていた。



たっぷりと子宮に精液を注がれたアリサは  
その日のうちに妊娠してしまう。



再び意識を取り戻すと腕を後ろに拘束され胸を突き出す様な恰好になっていた。

へ…へ…  
今度は何をやる気…

ククク…  
さすがにその貧相な身体では  
子が生まれてもちゃんと言えないのが  
出来なだらうからな

貧しい…へ…へ…

毒々しい色をした液体が透けて見える注射針を持った触手がアリサの乳房に近づいてくる

ひ...り  
じ...れ...

なにそんな乳房では  
栄養のある母乳を分泌してはなごだろっ

この特製の魔薬を使えば  
あっという間に栄養満足の  
母乳を分泌するようになる





魔薬が乳房の中に根を張るように広がり乳腺を侵していく。  
何か生き物が胸の中を這い回っているかのような感覚に感じたことのない  
快感を覚える。

はあ…はあ…  
ん…くぅ…ッ!?

その魔薬は乳腺を異常発達させ  
急成長に伴う損傷を即座に癒してくれる

痛みが快感に変わる今の身体なら  
乳房の変化も十分楽しめるだろう





膨らみ始めた乳房にドクンドクンと快感が渦巻き、身をよじり  
何とか快感から逃れようとする。

んあ…あ…熱ッ  
うっ…うっ…

おっぱいがギョーンギョーン  
イッて止まんないっ…

んんん

うっ…うっ…

ドクン

ドクン









後ろから再び妖魔のペニスが近づきアリスのお尻に擦りつけるように蠢く

母体の準備は完了した  
これから赤ん坊に成長促進液を与え  
出産予定回を早めるとしよう

ひっ…  
ああ…もう嫌…  
これ以上壊さなうでええ…♡

脳改造による影響で強制的に期待させられ  
正気な心とごちゃ混ぜになっていき、抵抗できない。



勢いよくペニスを挿入され下腹部がボコンと飛び出し絶頂したアリサの乳房から母乳が噴き出した



んっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

グイグイと子宮口をこじ開けようと  
ペニスを押し付けられ絶頂の波が  
止まらない。

脈打つように膈内が震いで  
良いマッサージになる

おお…  
ギューギューと締め付けてきて  
余程期待していたのだな

ギィ

ニィ







腹が膨らむほどの液を注入されるも  
気を失うことを許されず  
うめき声を上げながら身を  
震わせていた。




おー！  
はっ♡

んっ♡  
へっ♡

出産の回をわきまを  
してあげるから

これだけ与えれば  
良く育ってくれるだろう

快感の海に浸ったアリサは  
震えながらうわ言のように返事をした。  
液に浸された幼体が徐々に  
大きく成長していく。



幼体はどんどん成長していき  
数日とたたずアリサは産気づいた。



大きく膨らんだ腹に絶望し諦め心を無にするように努めていた。

そろそろ生まれるころだろう

まっきからお腹の中で  
ポヨンポヨンしてらてる...

またイッちゃうから  
動かないでよお...ッ

退魔師の霊力を吸った  
優秀な妖魔が生まれるのは喜ばしいことだ

しかし胎内で蠢く妖魔がアリサの心をかき乱す。



破水したアリサの膣穴から勢いよく液体が噴き出し子宮から妖魔が這い出てくる。

おお！ついに産まれるぞッー！

んぱっ♡

んんんんん♡

がしゃ、

がしゃあー！

出産の痛みは快感に変換されアリサの脳はスパークを起こす。



アリサの膣口が大きく開き粘液にまみれた妖魔の子の頭が出てきた。



すでに意志をもっている妖魔の子は胎内に残った身体を動かし母の子宮内をかき回し、アリサはビクビクと痙攣する。

妖魔の子は下半身を激しく動かしアリサを責め立てながら這い出てくる。

限界を超えた快感にアリサの瞳は大きく裏返り、改造された脳でも耐えきれず意識が明滅する。



ようやく出産が終わりだらしく開いた膣口からへその緒が垂れ下がる。

ククク…  
これで完全にお前も  
立派な妖魔の母になったわけだ

ゴ  
ゴ  
ゴ

お  
お  
お

よく頑張ったじゃないか

ド  
ド  
ド

ず  
る  
ん。

体力を限界まで使い尽くしたアリサは強烈な余韻に浸りながら気を  
落ち着けていく。



気を落ち着かせていたアリスのもとにいくつものペニスが寄ってくる。

さあ、少し休憩したなら  
次の子を産むための準備と行こうじゃないか

ずい

もう終わったんじゃない

ヌルッ

何を言っている  
お前は死ぬまで妖魔を産み続ける  
孕み袋なんだぞ


一生「妖魔の孕み袋」のままでいいのだから  
喜ぶよ

おっおっおっ

ずい

妖魔に孕み袋にされた女性は例え救い出されたとしても  
日常に戻ることは出来ない。





こうして、妖魔は毎日のように産み出され  
孕み袋にされる犠牲者が増え続けていった。